# 中勢道路 調査ニュース No.54 2010.12

Chusei News Letter No.54, Archaeological Properties Center of Mie Prefecture

#### 三重県埋蔵文化財センター

- 重宗 生成 入 1 日 ビンテー 〒515-0325 多気郡明和町竹川503 TEL 0596 (52) 1732 FAX 0596 (52) 7035 E-mail:maibun@pref.mie.jp http://www.pref.mie.jp/MAIBUN/HP/

中勢道路埋蔵文化財発掘調査整理所

〒515-2316 松阪市嬉野川北町471 TEL 0598 (42) 7960 FAX 0598 (42) 7961

#### あいかわ せいほう

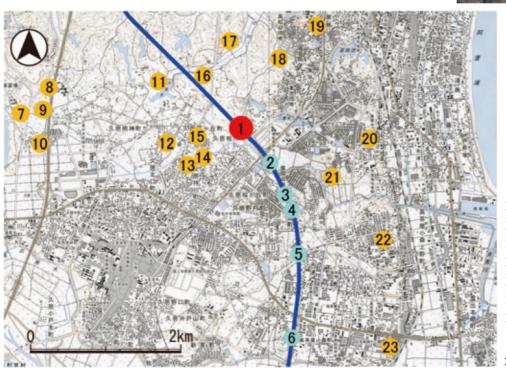
# 相川西方遺跡 第3次調査

調査面積: 3,000m<sup>2</sup>

調査期間:平成22年7月29日~平成23年1月31日(予定) 調査委託:国土交通省中部地方整備局 三重河川国道事務所

調査担当:三重県埋蔵文化財センター





- 1相川西方遺跡 2丸地遺跡
- 3城ノ越遺跡
- 4東山神遺跡
- 5本宮遺跡
- 6 向山遺跡
- 7 狐塚古窯跡
- 8 北原古窯跡
- 9 北池原遺跡
- 10狐塚遺跡
- 11大釜池古墳
- 12駒走り遺跡
- 13一丁田遺跡
- 14持川遺跡 15久居古窯跡群
- 16藤谷窯跡群

遺跡位置図 1:50,000

17元井池古墳 18半田横穴群 19高松C遺跡 20池の谷古墳 21法ヶ広窯跡 22高茶屋大垣内遺跡 23四ツ野B遺跡・ 高茶屋銅鐸出土地

## はじめに

三重県埋蔵文化財センターでは、国土交通 省からの委託を受けて、一般国道23号中勢バイパスの建設に伴う遺跡の発掘調査を進めています。平成22年度は、相川西方遺跡(津市 久居相川町)をはじめとする旧久居市北部の遺跡を調査しているところです。

今回ご紹介する相川西方遺跡の第3次調査 は、昨年度の第2次調査に引き続き行ってい るもので、これまでの調査面積はあわせて 6,400㎡ほどです。第2次調査では、弥生時代の終わりごろ(約1,700年前)の土坑(大きめの穴)が250ほど見つかりました。これらは、当時の人々が土器を作るための粘土を採った跡ではないかと考えています。

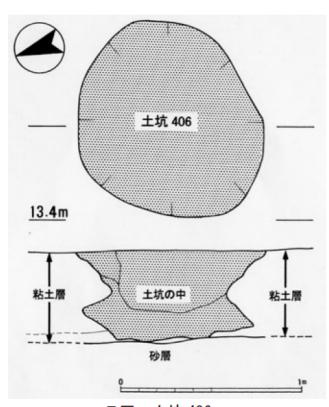
さて、今年度はどうだったでしょうか?次 のページからをご覧ください。

## 土坑(大きめの穴)がたくさん見つかりました!!

今回の調査では、すでに 150 を超える土坑が見つかりました。上から見ると、多くの土坑の形は整っていません。大きさは、それぞれの最長の幅になる部分を測ると、小さいものは 50cm ほど、大きいものは 10mほどです。深さは、浅いものは 20cm ほど、深いものは60cm ほどです。このように、見つかった土坑は、形と大きさと深さはまちまちです。

ところが、ひとつだけ共通する特徴があります。それは、ほとんどの土坑が粘土の層まで掘られているということです。粘土の層に達しないものは少なく、粘土の層を突き抜けてずっと下まで掘り下げたものは全くありません。このことから、見つかったほとんどの土坑は、土器作り用の粘土を採るために掘られたものと考えられます。

では、粘土はどこに運ばれたのでしょうか? ころん かまあと 近くには、古墳時代の窯跡や奈良時代の土器



Ⅱ区 土坑 406平面図(上)と断面図(下)(1:20)

を焼いた遺跡が見つかっているので、これら は有力な候補です。しかし、今回の発掘調査 では弥生時代の土器が出土しているため、こ れだけではないはずです。

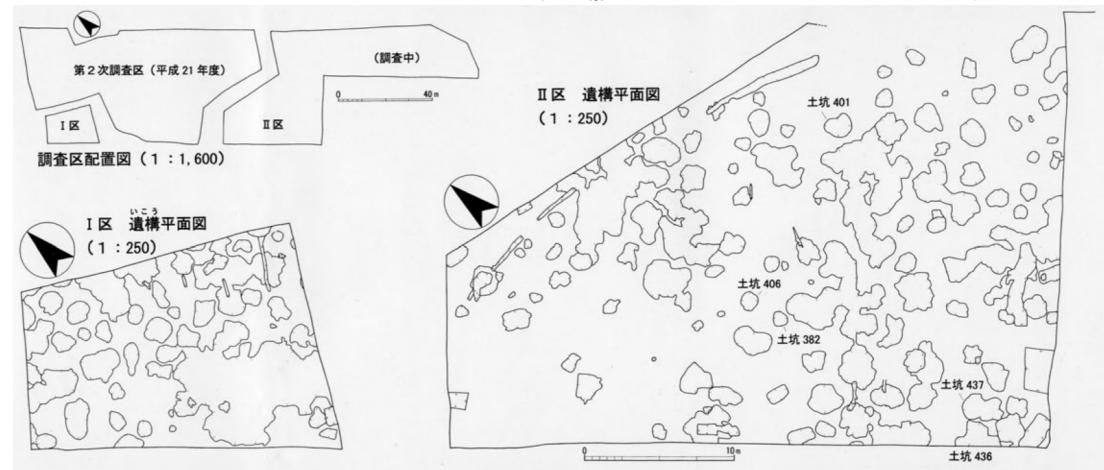
粘土がどこに運ばれたのかがわかれば、当 時の土器生産のしくみだけでなく、地域間の 結びつきなどもわかってくることでしょう。



I 区 全景



Ⅱ区 作業風景





Ⅱ区 土坑382 断面の様子



Ⅱ区 土坑 401 弥生土器の出土



Ⅱ区 土坑 436・437 奈良時代の土器の出土

## こんなものが出ました!



#### <sub>さっき</sub> 1削器

ものを切ったり削り取ったりするための せっきで、縄文時代初めころ(約12,000年前) のものと思われます。これは、サヌカイト という石を薄く打ち割り、刃のふちに細工 をしたものです。サヌカイトは大阪府と奈良県境にある二上山で採れるものですので、 遠くから運ばれたものとわかります。







## ②甕 ③壺 ④高杯

弥生時代終わりころ(約1,700年前)の 土器で、全体の形のわかるものは少ないです。相川西方遺跡ではこのころの土器が最も多く、粘土がたくさん採られたのはこのころと考えられます。ところで、粘土を採った跡になぜ土器がはいっているのでしょう?粘土を採る道具?弁当の入れ物?お供え?・・・今のところ、はっきりしません。



### 5)甕

奈良時代(約1,300年前)の土器で、胴の長い形の甕です。相川西方遺跡では、この時代のものは初めて見つかりました。このことから、奈良時代に粘土を採っていた可能性が出てきました。このことは、調査が進めば、くわしくわかってくるかもしれません。